

しが旅のススメ



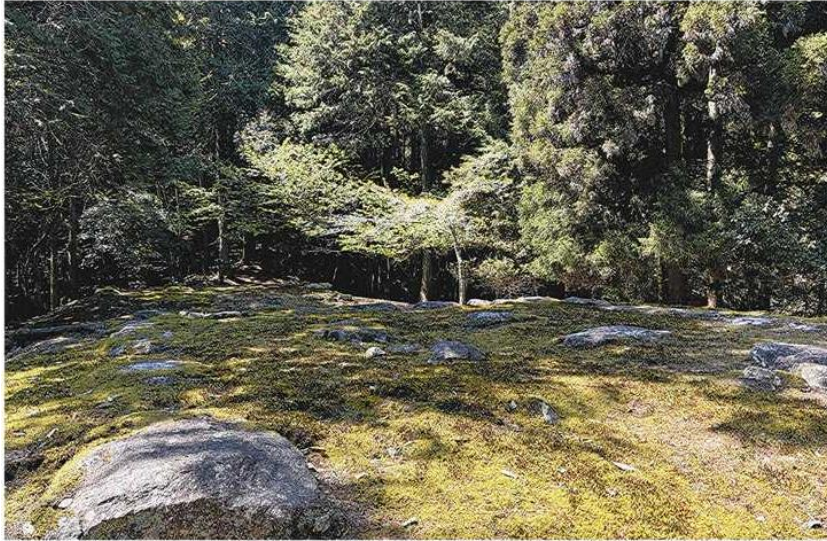
崇福寺跡のホームページはこちら



県内にはご存じの通り多くの寺院が存在し、それぞれに深い歴史があり、さまざまな出来事をくぐり抜けて今に至っています。時を経る中で、天災や戦災に遭った寺院も少なくなく、機能を失い廃寺になってしまった例も見られます。しかし、その跡に遺る礎石や瓦などによって、私たちは失われた寺院の面影を見ることが出来ます。今回は、そうした失われた寺院へ思いをはせる、崇福寺跡への旅を提案したいと思います。

### ■ 崇福寺跡(大津市)

## 新緑の中、古代を旅して



中尾根の礎石＝大津市滋賀里町甲の崇福寺跡で

国指定史跡の崇福寺跡は、大津市滋賀里の山中に位置します。南北三つに分かれる尾根にそれぞれ建物跡があり、北尾根には弥勒堂跡、中尾根には小金堂、塔跡と呼ばれる遺構が位置



南尾根の青紅葉＝大津市滋賀里町甲の梵釈寺跡で

します。現在はこうした痕跡が遺るばかりですが、崇福寺は、近江大津宮と関わり深い国家的な寺院でした。なお、南尾根は、平安時代初頭に桓武天皇により建てられた梵釈寺の跡と



これまでの「しが旅のススメ」はこちらから

にさしかかります。登った先には礎石がみられ、山あいには古代寺院の風格を感じることが出来るでしょう。なお、梵釈寺跡のある南尾根に中尾根から直接向かうことも出来ますが、急な道であり、沢で分断され通行の難易度は高いです。さきの分岐点に戻り、左手に進むルートの方が良いでしょう。傾斜が急な細い道も少なくなく、健脚向けではありませんが、歩きつつ遠い古代に思いをはせることのできるコースです。新緑の季節、緑の中で現代から少し離れる体験はいかがでしょうか。(県文化財保護課・飯村建成)

【アクセス情報】崇福寺跡へは京阪電鉄滋賀里駅より徒歩約20分。